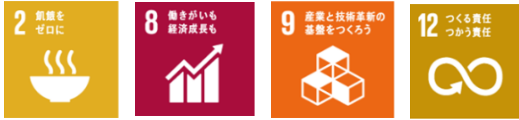


普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)4月21日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A23002
部門分類：110 (稲)
発信者名：柴田

はなふじ米の増収へ向けてヘアリーベッチすき込み研修会を実施

大津地域では、平成19年よりヘアリーベッチのみの肥効で栽培したコシヒカリを「はなふじ米」としてブランド化しました。大津市田上地域の4集落営農法人が栽培し環境こだわり農産物の認証を受けた「はなふじ米」は、JAレーク滋賀の直売所で販売され好評を得ています。緑肥作物の利用は国の「みどりの食料システム戦略」でも注目されていますが、近年「はなふじ米」の収量が減少しており、その原因としては緑肥であるヘアリーベッチの生育不足がありました。

昨秋、当課より「ヘアリーベッチでも麦並みの徹底した排水対策を」と呼び掛けた結果、播種前から実際にほ場の弾丸暗きょ施工や明きょ整備・播種方法の改善に取り組み、排水対策を実施したほ場では順調な生育となっています。

春を迎え、気温の上昇とともに、ヘアリーベッチの生育も加速度的に増大しているため、4月13日に適期すき込みに向けた現地研修会を実施しました。生育の順調なほ場において、50cm 枠内の刈り取りを実施し、農業者に示したところ「想像していた以上に緑肥の量が必要であった」という感想もあり、目標すき込み量を明確に示すことができました。

今後はヘアリーベッチのすき込み時期が遅れないように農業者と確認するとともに、その後の水管理が適切に行われるよう助言を行い、「はなふじ米」の収量アップに向けて支援を続けていきます。



すき込み研修会の様子



50cm 枠内のヘアリーベッチ計量